

U B E 三菱セメント株式会社 2024 年度決算説明会質疑応答

日 時：2025 年 5 月 29 日(木)16 時 00 分～16 時 50 分

登壇者：U B E 三菱セメント株式会社 代表取締役社長 CEO 平野和人
常務執行役員 CFO 加藤秀樹

【投資家・アナリスト向け説明会】

Q1 25 年度連結業績予想について

- ・ 米国事業の 25 年度業績予想が前年比△23 億円減益の要因別内訳を教えてください。
- ・ 販売値上げ影響 20 億円は、米国関税影響の転嫁か。
- ・ 米国事業の 25 年度業績予想には、米国関税によるコストアップといったマイナス面のみ織り込んでいる一方で、輸入品の価格上昇による国内品の販売価格上昇の様なプラス面は織り込まれていないという理解で良いか。

A1

- ・ プラス要因として増販 50 億、値上げ 20 億円程度の一方で、マイナス要因として円高による換算影響△16 億円、セメント工場の定期休転が 24 年度期末へずれ込んだことによるコスト負担の期ズレ影響△10 億円、米国関税による資材価格差△10 億円、原材料や燃料等のコスト増加△60 億円を見込んでいる。
- ・ 関税の発表以前に策定した値上げ計画であり、関税によるコスト増加を反映した値上げではない。
- ・ 米国関税については、出来る限り当社グループ内で影響を抑えることを最初の取り組みとしている。それでも、負担が残ってしまう部分については、値上げを行う可能性もあるが、現時点では計画に織り込んでいる。

Q2 国内セメント販売数量及び価格について

- ・ 国内セメント事業の 25 年度販売数量について、内需が落ち込む中でも前年比横ばいを見込んでいる背景は何か。
- ・ 国内セメント価格について、25 年度は値上げによりどの程度の上昇を見込んでいるのか。

A2

- ・ 現状、デリバリー等で一部課題を抱えている箇所があるが、今年度はその解消に取り組むことで、これまで取りこぼしていた工事口などの案件を拾い上げ、前年並みの販売量を確保する見通しとしている。
- ・ 具体的な値上げ幅の織込み状況はお答えできないが、業績予想における販売価格差から輸出価格の下落影響を除いた国内セメントの販売価格差だけを抽出すると

120 億円程度となる。

Q3 石炭価格について

- ・ 25 年度業績予想における国内セメント事業のエネルギーコスト抑制効果 35 億円について、諸元の石炭価格からは効果が控え目に感じるが、マイナス要因があれば教えてほしい。

A3

- ・ 25 年度業績予想の前提条件として、石炭は FOB 価格トン 150 ドルで見ているが、これはあくまで高品位炭に適用される価格である。当社における高品位炭の比率は、全体ではそこまで高くないという状況ではあるが、価格設定時の石炭相場の先高感を反映していることから、足元の実勢価格から比べるとやや高めの設定になっている。一方で、25 年度に使う石炭の 40%程度は既に価格を契約済みであり、その部分は業績予想に織り込み済である。

Q4 カーボンニュートラルについて

- ・ 今後カーボンニュートラル等への投資が求められていく中、国内同業他社様では国内事業の収益性は 10%程度必要とのコメントを残されているが、今回の 2,000 円値上げについて、U B E 三菱セメントとしてはいかがお考えか。

A4

- ・ 当社は独自の価格政策により販売価格を決めているが、今回の 2,000 円値上げにはカーボンニュートラル等への投資原資は含んでいない。これから具体化してくるカーボンニュートラルに対するコストについては、自社でも吸収する努力をするが、適宜価格転嫁していくことになると考えている。

Q5 収益性について

- ・ 国内セメント事業について、25 年度営業利益は 155 億円であるが、売上高営業利益率はどうなっているか。また、今後狙うべき水準としてどのあたりを考えているのか。

A5

- ・ 当社全体の売上高営業利益率は平均で 9%程度であるが、国内セメント事業の 24 年度実績が 5%、25 年度予想が 8%となっており、前年比で上昇するものの、当社全体に対しても見劣りする状況であり、収益性としてはまだまだ不十分と認識している。

Q6 2030 年のあるべき姿について

- ・ 営業利益 750 億円を掲げているが、25 年度営業利益 520 億円から、どの事業をど

の程度伸長させるつもりか。また、優先順位があれば教えてほしい。

A6

- ・ まずは、コア事業である国内セメント事業を適正な利益水準へ押し上げる。併せて、米国の既存事業についても、リソースを割いて、適切な対策を施していく。さらに、新規海外拠点については、現地の既存セメント工場等を M&A で獲得することを想定しているが、タイミングや価格等不透明な面も多く、今の時点で申し上げられることはない。これら 3 点ともしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

Q7 株式上場準備開始について

- ・ リリースを拝見したが、どのようなエクイティストーリーを描くのか。現状セメント各社の株価は PBR 一倍を超えない水準だが、U B E 三菱セメントのエクイティは厚く、競合他社比で ROE が優位と言えない中、上場によって U B E 三菱セメントの株主になられる皆様へどのようなメリットを訴求する考えか。また、スキームとしては新規発行ではなく売り出しがメインとなるのか。

A7

- ・ 現時点で回答いたしかねる。今後具体的に検討を進め、適宜・適切に皆さまへお知らせしていきたいと考えている。

以 上